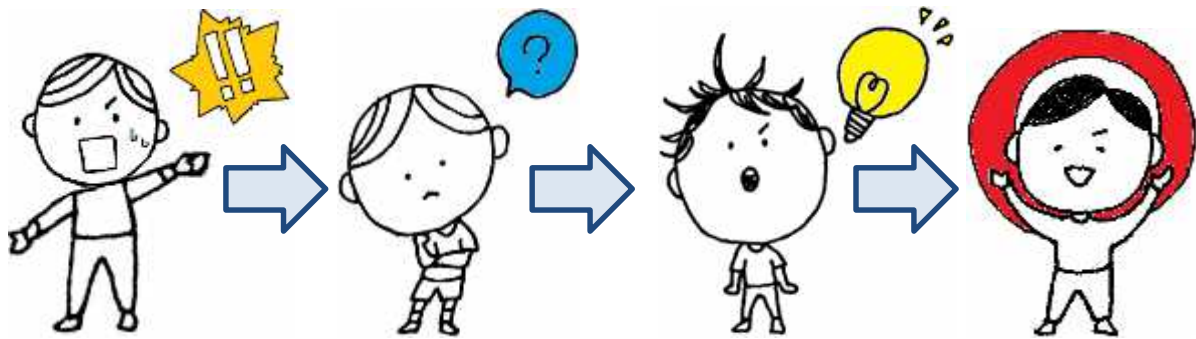


ヒヤリ・ハットは改善すべき！対策トレーニングをしよう！

ヒヤリ・ハットした作業は、場合によっては大事故になる恐ろしい体験です。同じ体験をしないため、出来ることを「考えるクセ」を身につけましょう！



第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
作業で「危ない！」と考える作業を洗い出す	なぜ危険になってしまうのか、原因を考える	危ない作業を減らすための対策をたてる	より安全な作業を実行してみる
問題解決の4段階		対策トレーニングの4段階	
第1段階	事実をつかむ	「ヒヤリ・ハットや危ないことをすべて洗い出す」 みんなでイラストや写真を見ながら自由に発言します。この時、他人への非難は避け、発言に便乗したり連想します。ヘルパー等、農場外の人の意見も参考にします。発言は、「〇〇して△△になる」というようにします	
第2段階	問題点を探る	「これが原因」 発見した危険要因について全員で洗い出して、これが問題点だと思われるものに〇印を付けます。さらに、重要度の高いものから「印」や「番号」を付けます	
第3段階	対策を立てる	「あなたならどうする」 重要度の高い問題を解決するにはどうしたらよいかを全員で考え、具体的な対策を立てます	
第4段階	行動計画を決める	「私たちはこうする」 立てた対策のうち、実施すべき重点項目に「印」や「番号」を付け、いつ、誰が実践するか決めます。実施出来たらマルなどを付けます	

図 対策トレーニング 問題解決のための4段階について

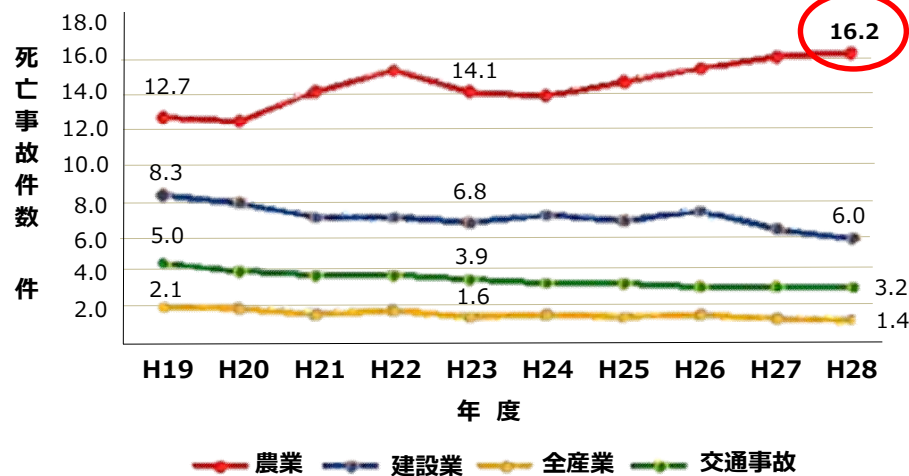
対策トレーニングを実際にやってみると！

第1段階 「事実をつかむ」	第2段階 「原因追究」	第3段階 「対策を立てる」	第4段階 「行動」
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 育成群で治療や去勢中にたびたび襲われた ✓ 除糞中、牛に押された ✓ 発情中の牛に乗られそうになった 	<p>時には関係機関などと一緒に考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ひとりで作業していた ✓ 目の前の牛ばかり見ていた ✓ 発情確認を怠った 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 育成群は2人作業とする ✓ 対象牛は保定する ✓ 発情中の牛を確認する ✓ スタンションを導入できるかJA等に相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 育成群作業は2人で行う ✓ 対象牛保定は必ず行う ✓ 発情中の牛を共有する ✓ スタンションは次年度設置を目指し見積もりを依頼する

家畜管理時の農作業事故は自身で

防ごう！～現状と対策～

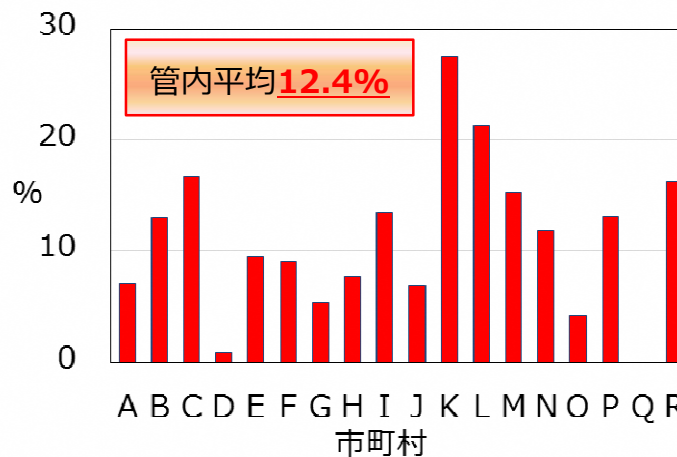
農業は危険な産業！？ オホーツク管内の家畜管理時の事故割合を知っていますか？



農業は全産業の死亡リスクの約11.6倍、建設業よりも約2.7倍の高さで推移しており、事故数を少しでも減らすことが求められています。

※このデータは、耕畜すべての農業者における件数を表しています

図 人口10万人に占める死亡事故件数の推移 (全国)



管内の家畜管理時の事故は12.4%となっており、約7戸に1人がケガをしていることとなります。

また、怪我のうち22.8%が骨折、9.5%が入院しています。これは、病院にかかる時はケガの程度が重い場合が多いことを表しています。

図 管内畜産農場における直近3カ年の家畜管理時の事故発生割合

管内では約7戸に1人がケガしており、重傷割合も高い！

痛みに耐えながら仕事した結果、大ケガをしてしまった人もいたよ。大ケガになる前に「報告・連絡・相談」！



ケガをしてから、対策を実施している農業者がほとんどです！

事故は「防げる」という考え方が最も大切です！

「事故を防ぐ」気持ちで、出来ることから始めましょう！



安全に正解はありません。危険のリスクを考えて、行動しよう！

作成：網走農業改良普及センター地域課題解決チーム

協力：農研機構 農業技術革新工学研究センター研究推進部戦略推進室、オホーツク地区農作業安全推進本部

家畜管理時の農作業事故 ～現状と解決策 事例集～

Case 1 (繋ぎ) : 牛の移動作業中、牛が急に走り出したがロープを離さず引っ張られて、アキレス腱断裂



なぜ? →手を離して逃げられると面倒だと思ったから

対策! →ロープを手首に巻き付けず玉留めのみとする(写真上)。他農場では、玉留めも作らず、踏ん張れない様に工夫した(写真下)

Case 2 (繋ぎ) : 暴れる牛の人工授精作業中、押さえたら隣の牛に足を強く踏まれ、足指を骨折



なぜ? →目の前の牛ばかり気にしていたから

対策! →固定用のヒモをタイラール(ません棒)に結んでおき作業する際は牛の頭を人側に固定することとした。安全靴も使用する

※写真の格好では牛は人に寄れない

Case 3 (フリーバーン) : 1人で除糞作業中、牛や壁に挟まれ肋骨損傷、給餌通路まで這って脱出



解決策① 作業員全員と改めて牛と接する際の注意点を確認

牛のハンドリングについて全員が熟知・実施する
追い込まれないよう壁に寄らない・壁側は歩かない
牛の前に立たない、牛の顔は手などを使い避ける
常に逃げ場があるように作業する etc.



過去にどついた牛を「鈴」と「赤い首ベルト」で判別



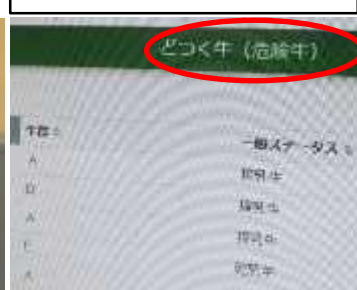
護身は「警棒」などの棒は「オースメ」!

解決策② ヒヤリ・ハット対策を全員と話し合い、すべて実施 (↓ 対策の一例)

牛舎内作業員は乗馬用プロテクターを装着する



「どつく牛(危険牛)」リストを作成、作業員で共有



危険に備え「棒」を所持、万が一の時のみ使用する



普段の何気ない作業や心構えから防げる事故もたくさん! リスク管理を心がけましょう!

【家畜の管理から】

- 家畜の死角から近づかない、驚かせない
- 家畜の状態(疾病や発情、気性など)を作業員全員が分かる状態にする
- 家畜の受けるストレスをより少なくする(推奨される飼育方に近づける)

【人の心構えから】

- 危ないと思ったらすぐ相談する
- リスクを考えてから作業する
- 会話で危ないことを共有する
- 後ろ歩きで作業しない、前を見る
- 当日の体力や心の状態を理解する



対策色々! アイデア満載! 安全管理を確保しよう!



セラミック & スパイク

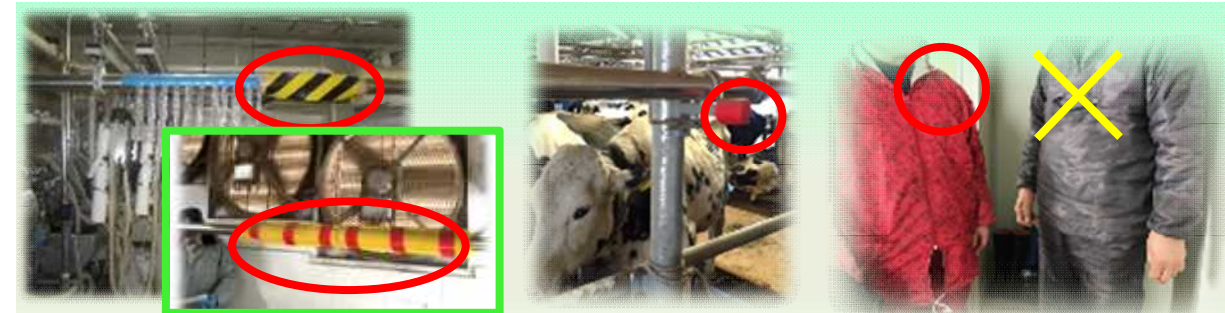
ゴム素材のうちPVCは低温時に非常に硬くなり滑ります

明るい! 便利! LEDライト付き帽子! 両手が使えて怖いところでも安心! 2,036円

先端に芯が入った長靴は軽量化されています!

セラミックはコンクリートで滑りにくい。寒冷時は硬くならない材質の長靴を履く

暗い朝晩などで大活躍! キャップの先端にライト



頭上や突起物には緩衝材を巻きつけて、その上に危険を示すテープを止めることで、危険を防止!

明るい色の作業着を着て目立つことも大切です!



親牛の移動用ワク。牛の移動には安全な道具を多く活用して、牛も人も事故にあわない工夫を

牛に触る時は話しかける等のルールで牛も安心

毎日、ミーティングで安全作業について確認する牧場も。日々のコミュニケーションは、最も大切で有効な手段です!



高所作業(2階やバンカー)でのヘルメット着用例

救急箱はすぐ取れる場所に!